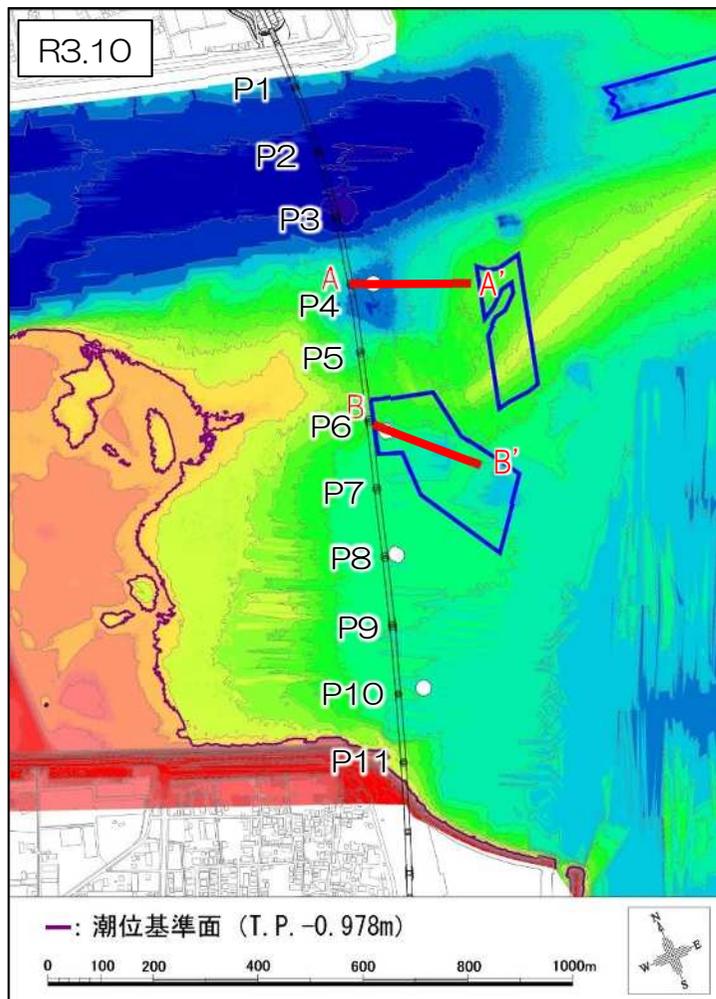


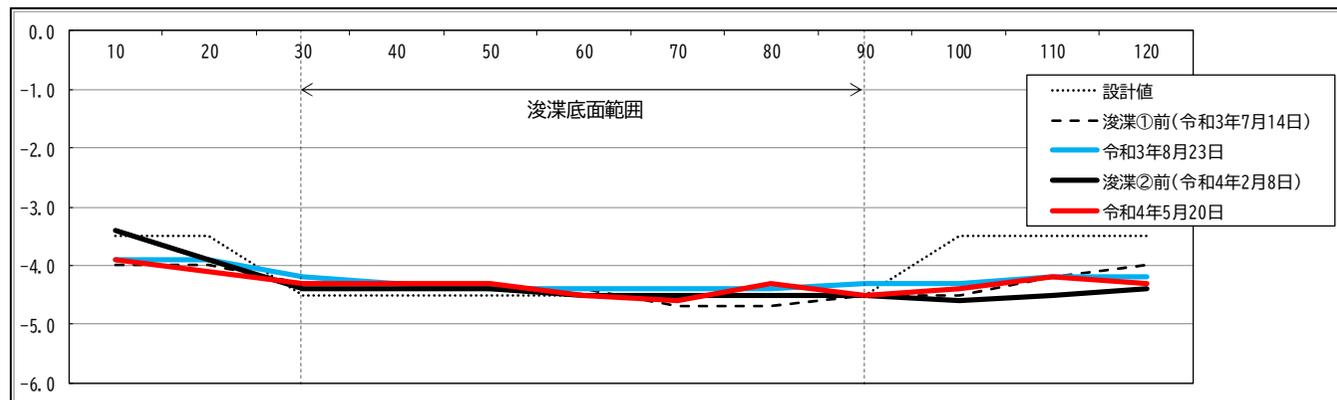
■ 環境モニタリング調査結果(浚渫後の地形の戻り具合①)



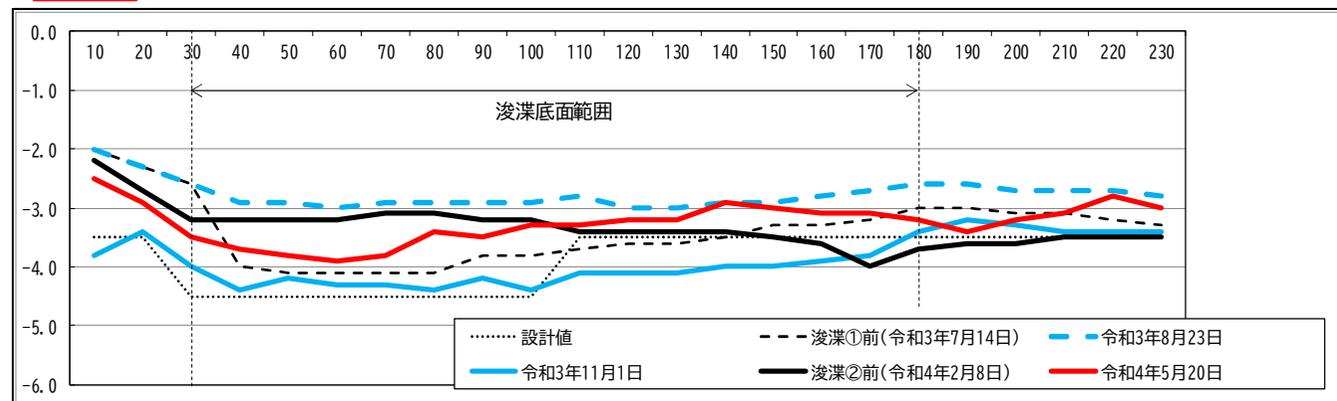
R3.10をもって地形調査は終了したが、工事側にて浚渫箇所を測定しており、最終時点の令和4年5月20日（赤ライン）では、A-A' で若干の埋め戻りと、B-B' での埋め戻りを確認した。



A-A'



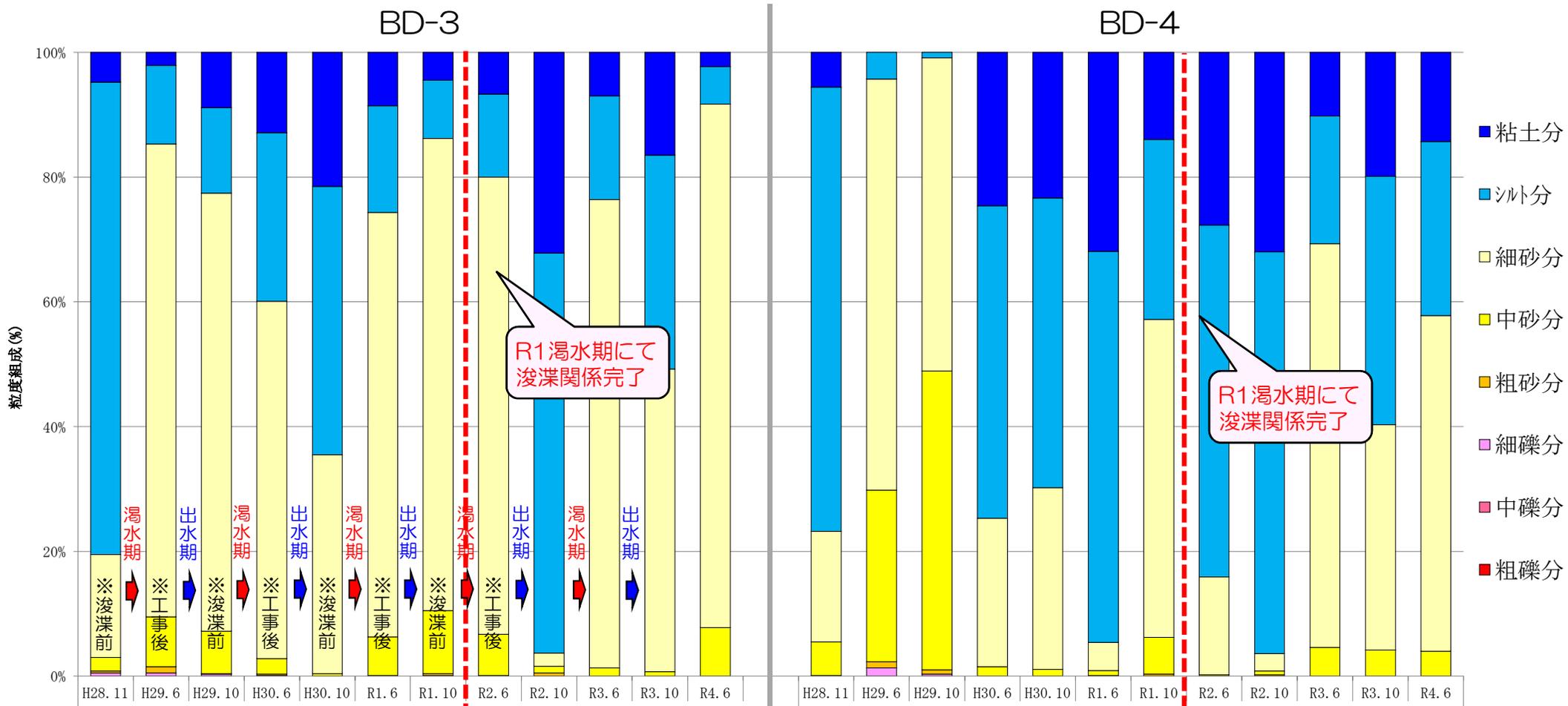
B-B'



■環境モニタリング調査結果(底生生物・底質調査)



浚渫箇所での底質の変化について、BD-3と4周辺は令和元年の湧水期をもって浚渫関係は終了し、地形も窪地から元のフラットの状態に戻っている。底質については、工事前は泥分が多く、浚渫によって砂質が増えたことが確認されたが、工事中及び工事後も泥分が増えたことを確認した。ただし、BD-3周辺については、R4.6時点で砂質が多く確認された。



- 浚渫完了後、地形は元に戻ったことを確認した。
- ※R4.6調査では砂分が増加している。

- 浚渫完了後、地形は元に戻り、底質も泥分が多く確認された。

